新年のご挨拶

徳島県知事（全国知事会会長）
飯　泉　嘉　門

明けましておめでとうございます。

公益社団法人徳島県宅地建物取引業協会の皆様には、輝かしい新年をお健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、日頃より、不動産業界の発展のために多大なご尽力をいただくとともに、本県の住宅・建築行政はもとより、県政各般にわたり格別のご理解、ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が、世界に不安と混乱をもたらし、私たちの生活を一変させました。新たな感染症が人類の脅威となる中、自身の感染リスクも顧みず、最前線で闘う医療従事者の姿に、県内が「感謝とエールの藍色」に染まりました。

本県では、この歴史的危機に立ち向かうべく、検査機能の強化や医療提供体制の確保はじめ、感染に備えた避難所対策、国の「持続化給付金」を導いた100万円限度「融資額連動型の企業応援給付金」、利用泊数４万２千人泊を超えた「夏のとくしま応援割」、イベント・リスタートの象徴「“ニューノーマル”阿波おどりの祭典」、感染拡大と人権侵害の防止に県民・事業者・行政が一丸となって取り組む「新たな条例」の制定など、「感染症に強いスマートな徳島の創造」と「力強い経済の再生」に全力を傾注して参りました。

また、オンラインを活用して機動的に開催する全国知事会がプレゼンス・存在感を発揮し、数次にわたる国への緊急提言は「地方創生臨時交付金の創設、総額４.５兆円確保」、医療･福祉支援の「緊急包括支援交付金の創設、総額２.４兆円確保と全額国費化」に繋がるとともに、感染拡大が続く地域への看護師や保健師の派遣、令和２年７月豪雨への対応、デジタル社会の構築など、現場を預かる47都道府県の叡智を結集し、積極果敢に取り組んできました。

一方、大都市部の感染リスクの回避と人口集中の是正に向け、「中央省庁の地方移転」「大企業の地方分散」「地方大学の魅力化・定員増」による大胆な国家構造の転換が求められる中、明治開闢（かいびゃく）以来初めて、国の本庁機能が地方へ広がる「消費者庁新未来創造戦略本部」の開設、テレワークはじめ徳島発の「サテライトオフィス」による新しい働き方の実装、「ポストLED（深紫外、赤外光コム、テラヘルツ）」を核とした修学・就業機会の創出など、時代を先取りする本県の取組みが「新次元の分散型国土」の形成を先導しました。

さらに、県内プロスポーツが実力を遺憾なく発揮、徳島ヴォルティスの「Ｊ２優勝でのＪ１復帰」、徳島インディゴソックスの「四国アイランドリーグplus２連覇」が、県民に明日への勇気と活力を与えてくれました。

こうした中、コロナ禍で高まる「地方回帰」の受け皿づくりに向けても、「とくしま回帰」住宅対策総合支援センターを核として、地域に眠る空き家の耐震化や最先端設備導入によるスマート化など、きめ細やかな支援を行い、徳島への移住促進を積極的に図っております。

さて、今年の干支は「辛丑（かのと･うし）」。「辛」は「新」に通じ、伏在していたエネルギーが発現する「万物の新生」を表し、「丑」は「嬰児が手を伸ばそうとする姿」から「物事の始まり」を意味します。そこで、「辛丑」は、「次世代のトレンドを掴み取るため、現状打破する『革新』を繰り返す」とされます。

今年は、東日本大震災から10年という節目に、日本の復興を示すだけでなく、世界がコロナを乗り越える希望として「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催されます。県内では、次世代の乗り物「DMV」が世界初の営業運行を開始するとともに、VRシアターはじめ「新未来型展示」へとリニューアルする県立博物館、開園20周年を迎える「あすたむらんど徳島」に都道府県立で初の「徳島木のおもちゃ美術館」が、オープンします。

人口減少、災害列島、新型コロナの「３つの国難」を打破し、県民の皆様に、「WITHコロナ時代」から「アフターコロナ時代」の新たな地方創生を実感頂けるよう、頑張って参りますので、皆様には、なお一層のお力添えを賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって実り多き年となりますことを、心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。